



す い た み な み し ょ う が っ こ う

令和3年

(2021年)

全国学テ号

吹田南小学校だより

学校教育目標 「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、令和3年5月27日に、全国の小学校6年生を対象に実施されました。以前は、それぞれの教科で主に知識を問うA問題と主に活用を問うB問題の2種類が実施されていましたが、前回、令和元年から、A問題・B問題の区別がなくなり統合されました。なお、昨年、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により中止されております。教科は、国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。



対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

(1) 国語

■ 概要

平均正答率については全国値とほぼ同じであり、大阪府の値をやや上回りました。また、単純に比較はできませんが、経年変化を見ると、正答率は、(昨年は中止だったため)一昨年度と比べて、ほぼ同じでした。

■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、スピーチに関するもので、「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの内容を構成する」、「資料を用いた目的を理解する」、「目的や意図に応じ、資料を使って話す」等の問題です。ここ数年、学校教育目標を「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」として、「学び合い」による授業方法に取り組んできた成果が表れていると考えます。



【書くこと】

この領域では全国値をやや下回りました。この領域の問題は、文章の下書きに関するもので、「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」、「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」等の問題です。目的や意図に応じて、資料から必要な文章や言葉を選び、より効果的に詳しく書き表すというのは難しい作業です。普段からの練習が必要です。

【読むこと】

この領域では全国値をやや上回りました。この領域の問題は、資料を読み、「文章全体の構成を捉え、内容の中止となる事柄を把握する」、「目的に応じ文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」等の問題です。全国値を上回っているものの正答率が低く、今後も読む目的を明確にし、必要な情報を見付けたり要約したりする活動が必要です。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

この領域では全国値を下回りました。この領域の問題では、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」は全国値を上回りましたが、「漢字を文の中で正しく使う」、「文の中における主語と述語との関係を捉える」、「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」等は全国値を下回りました。語彙は書く機会が多いと広がります。また、読書によってさまざまな文章に触れることも大切です。

■ 国語科における分析結果と課題について

今後、「対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「文章の構成を理解すること、さらに目的に応じて、文章を要約したり、いくつかの情報を関連付けたりして理解を深めること」を、今後伸ばしていきたいです。そのためには、図や表を用いてあるテーマについて語り合ったり、本や新聞等を使って、読み手や書き手の考えについて語り合ったりする時間をもつことが大切です。この活動は、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

(2) 算数

■ 概要

平均正答率については全国値、大阪府の値に比べ、ともに上回る結果となりました。また、単純に比較はできませんが、経年変化を見ると、正答率は、(昨年は中止だったため)一昨年度に比べて上回りました。

■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【数と計算】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「2つの道のりの差を求める」、「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して



判断する」、「1より小さくなる等分徐の場面で式に表し計算する」、「基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述する」等の問題です。よく理解できていると思います。スモールステッププリント等の取り組みの効果が表れているものと思われる。

【図形】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「三角形の面積を求める」、「複数の図形を組み合わせた図形の面積がわかる」等の問題です。全体的には理解できているのですが、示された数値から必要な情報を選び出すことが出来ていない等、基本的な面積の求め方に課題があることもわかりました。様々な図形の面積を求め、必要な情報を選び出す機会を設ける必要があります。



【測定】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「道のりの差を求める」、「条件に合う時刻を求める」、「複数の図形を組み合わせた図形の面積を比べる」等の問題です。よく理解できていると思います。

【変化と関係】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係を考察する」、「速さを求める式とその意味を理解する」、「速さと道のりから時間を求める」等の問題です。よく理解できていると思います。

【データの活用】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「棒グラフから数量を読み取る」、「棒グラフから項目間の関係を読み取る」、「データを2次元の表に分類整理する」、「複数の帯グラフを比較し、示された特徴の項目を読み取る」、「特徴を捉えるために、適切なデータを選択する」等の問題です。よく理解できていると思います。

■ 算数科における分析結果と課題について

算数の全ての領域で全国値を上回り、よく理解できていますが、算数においても、今後、「対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「単に公式を覚えるのではなく、求め方を式や言葉を用いて記述すること」、「どのような解答の仕方が求められているのかを読み解くこと」、「理由を記述するうえで、解答の筋道を論理的に書くこと」を、今後伸ばしていきたいです。そのためには、求め方を文に表したり、設問に求められる条件を見つけたりすることが大切です。「どうやって解いたの?」「なぜそう考えたの?」等、子どもに説明させる問いかけを意識的に使うことは、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。



2.生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙調査について）

特徴的なこととして、「学校に行くのは楽しいですか?」という質問には、全国値を上回りました。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか?」という質問には、ほぼ全員が肯定的回答をしており、その割合も全国値を上回っています。子どもたちが充実した学校生活を送り、正しい倫理観が育っていることがうかがえます。

また、「自分には良いところがあると思いますか?」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか?」という質問でも、肯定的回答が全国値を上回りましたが、「人が困っているときは、進んで助けていますか?」という質問では、全国値をやや下回りました。自己肯定感や自己有用感が育ちつつあるので、実際の場面で、積極的に行動に移せるようになることを願います。

3.今後の取り組み

子どもたちの学力を定点測定するのがこの調査の目的ですが、その「測定する学力そのもの」に対する考え方が変化してきています。「他者に伝えるときにどのように伝えるか」とか「資料をどのように活用するか」というような実践的な場面で知識をどのように活用できるかというところに重点が置かれています。これは、現在実施されている新学習指導要領で「何を知っているか」から「何ができるようになるか」を重視しているからで、計算力や暗記力から実践的な場面で使える知識やスキルに学力の柱が移ったことを示しています。また、このことは、社会や理科等他の教科についても同じです。

本校では、ここ数年、学校教育目標を「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」として、「学び合い」による授業方法に取り組んでいます。主体的で対話的な深い学びの実現をめざし、他者とのかかわりの中で学力や探究心を育む方向での授業研究をしています。今後もこの方向で研究、授業改善を行っていきます。

4.ご家庭にご協力いただきたいこと

最後に、「活用する能力」を育てるために、ご家庭でもできることをお知らせします。例えば、学校で習った学習や、読んでいる本に対し「その物語は、どんな内容なの?」とあらすじを説明してもらうことや「学習をしてどう思った?」と聞いてもらうことが、子どもの思考力を高めていくことにつながります。学校であった出来事や、新聞やテレビのニュースを題材にして、家庭で会話をたくさんしていただくことも有効です。また、日常生活の中で、物事の様子や答えの求め方を自分の言葉で説明する機会を作っていただくことも、子どもの思考力を育てます。説明することが苦手な子どもには、スモールステップとして、ヒントとなる言葉をいくつか示し、つなげて文章にするところから始めていただければいいと思います。

家庭生活においては、「就寝・起床時刻を守る」「家庭学習の時刻や時間を決めて取り組む」等、規則正しく生活させることや、「地域の行事に参加する」「新しいことにチャレンジする」等、いろいろな人やものに触れ合う機会を持たせることも進めていただければ、学力向上に繋がります。ご協力、よろしく願いいたします。